

# まとめ

## 身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための幼稚園・こども園の役割

幼児期は、家庭において親しい人間関係を軸にして営まれた生活からより広い世界に目を向け始め、生活の場、他者との関係、興味や関心等が急激に広がり、依存から自立に向かう時期である。

子どもの生活の場の広がりに伴って、子どもの興味や関心は生活の中で様々な対象に向かって広がっていく。

本特別事業では、子どもの豊かな感性を育むために、生活の中にある、家庭や園で手にすることができる、身近なものを利用して、作って遊ぶ活動に焦点を当て、実態調査と全国7ブロックで全国キャンペーン・研修会を実施した。本研究を基に「親子の触れ合いを通して、身近なもので作って遊ぶ楽しさと大切さ」と「幼稚園・こども園の役割」について以下にまとめる。

### 遊んだり生活の中で、身近ないろいろな素材を利用して作って遊ぶ楽しさを感じられる機会を増やす

家庭や園の中にある子どもにとって身近ないろいろな素材で遊ぶことは、それらに触れたり確かめたりしながら、その性質や仕組みなどを知っていく幼児期の学びにつながる。興味や関心をもって繰り返し関わる中で、次第にその性質や仕組みに気づき、子どもなりに使いこなせるようになる。子どもがやりたいと興味や関心をもち、作って遊びたいと思ったときに、自由にいろいろな素材に触れ、子どもなりの発想や気づきを実現していくことができるよう、園は環境を整え遊ぶ楽しさを感じられる機会を増やしていくことが重要である。

また、身近な素材や材料を使って遊ぶ活動を指導計画に位置付けるとともに、作って遊ぶ活動に精通している講師や地域の人材を活用することで、子どもの感性を豊かにしたり、教師の作って遊ぶことに関する知識を高めたりすることにつながる。

### 身近なものに関わって遊ぶ体験を、保護者へ積極的に発信する

全国キャンペーン・研修会のアンケートから、身近にあるものに関わり、親子で一緒に作って遊ぶことが、我が子とじっくり向き合い、遊びの楽しさを共有し、子どもの成長を感じたり、子どもの創造性や可能性を実感したりと保護者自身が子育てに前向きになったことが明らかになった。このことから園は、親子で一緒に楽しむことを促すために、積極的に園での取組や子どもたちの様子を分かりやすく発信していく必要がある。

さらに、生活の中にある身近なものに親しみ、作ったものを繰り返し使って遊ぶ経験が、限りある資源を大切にす意識や環境問題への関心を高めていくことにもつながると考える。

この調査研究の内容を、今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取組を継続していただきたい。

#### 令和4年度 編集・執筆 特別事業委員

委員長	渡部 佳代子	江東区立第五砂町幼稚園
副委員長	足立 祐子	台東区立竹町幼稚園
委員	山口 晃司	中央区立豊海幼稚園
委員	浅沼 美穂子	浦安市立神明認定こども園
委員	青山 伸子	港区立芝浦幼稚園
委員	川嶋 佳恵	杉並区立高井戸西子供園
委員	宮山 加奈子	浦安市立北部認定こども園
委員	穴原 江美	千代田区立いずみこども園
国公幼会長	箕輪 恵美	中央区立有馬幼稚園
同 副 会 長	高橋 慶子	目黒区立みどりがおかこども園
同 事 務 局 長	佐藤 忍	国公幼事務局

#### 令和4年度 特別事業委員研修会講師

国公幼副会長	朝野 浩行	東京学芸大学附属幼稚園
--------	-------	-------------

#### 令和5年度 編集・執筆 特別事業委員

委員長	足立 祐子	台東区立富士幼稚園
副委員長	山口 晃司	中央区立豊海幼稚園
委員	浅沼 美穂子	浦安市立神明認定こども園
委員	川嶋 佳恵	杉並区立高井戸西子供園
委員	宮山 加奈子	浦安市立北部認定こども園
委員	穴原 江美	千代田区立いずみこども園
委員	小池 友美	中野区立かみさぎ幼稚園
委員	高沢 ゆみか	北区立じゅうじょうなかはら幼稚園
国公幼会長	高橋 慶子	目黒区立みどりがおかこども園
同 副 会 長	森山 未来	渋谷区立山谷幼稚園
同 事 務 局 長	佐藤 忍	国公幼事務局

#### 令和5年度 全国キャンペーン・研修会ブロック担当

東北北海道	三浦 多恵子	一関市立舞川幼稚園
関東甲信越	中島 透	長野原町立応桑こども園
東海北陸	村井 園美	富山市立速星幼稚園
近 畿	住田 純子	大和高田市立菅原幼稚園
中 国	松本 寿子	下関市立豊東幼稚園
四 国	吉田 理香	愛南町立あいなん幼稚園
九 州	古長 妙子	由布市立由布川幼稚園

発行日 令和6年3月3日  
 編集発行 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 高橋慶子  
 住 所 〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-28 ナーベルお茶の水208

電 話 03 (5684) 2240  
 F A X 03 (5684) 2174  
 E - m a i l entyoukai@kokkoyo.com  
 ホームページ https://kokkoyo.com



# 身近なもので作って遊んで! 親子で一緒に楽しもう!



## 家庭との連携を通して幼児の健全な育成を ～身近なもので作って遊んで!親子で一緒に楽しもう!～

### 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 高橋慶子

全国国公立幼稚園・こども園長会では平成11年度から「特別事業」に取り組み、幼児を取り巻く喫緊の今日的課題に対応するための調査研究を積み重ねてまいりました。

令和4・5年度は「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」を実施しました。1年次には実態調査(アンケート)と調査結果の分析・考察からの提言を記したリーフレットの作成、2年次には親子でできる教材を作成して国公幼のホームページに載せ、2年間の研究のまとめとなるリーフレット形式の報告書の作成を致しました。それらには毎年行われる親子参加型の全国キャンペーン・研修会の成果も写真とともに掲載されています。幼稚園教育要領等には家庭との連携が重要視されており、この事業はその一端を担ったものとなっております。ぜひ、幼児の健全育成や家庭での教育力向上にお役立ていただければ幸いです。結びに本事業に際し、ご指導いただきました東京学芸大学教授 朝野浩行先生をはじめ、全国キャンペーン・研修会や報告書作成にあたりご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

全国国公立幼稚園・こども園長会  
特別事業委員会



## 国公幼からの提言

1年次の調査及び全国キャンペーン・研修会を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域において「子どもの豊かな感性を育む」ために、以下の提言をする。

やってみよう!



### 提言1 遊びや生活の中で、身近なものに関わり、いろいろな素材に親しんだり、作って遊んだりすることを体験できるように遊びや環境を工夫しよう

幼児は、身近なものに関わり、いろいろな素材に親しんだり、作って遊んだりすることを通して、豊かな感性や表現力を育んでいく。幼児が身近な素材を使って作って遊ぶことを楽しんだり、自分のイメージを表現する喜びを感じたりできるように、環境を準備したり、作って遊ぶ機会を意図的・計画的に取り入れたりすることが大切である。

- 幼児が自分のイメージを表現したくなるような素材や材料を準備し、作って遊ぶことを繰り返し楽しめる環境を工夫しよう。
- 様々な身近な素材や材料を使って、作って遊ぶことを繰り返し楽しめるように、作って遊ぶ活動を工夫し、指導計画に位置付けよう。
- 身近な素材や材料を使って、作って遊ぶ遊びの指導や環境づくりについて研修をし、実践に生かそう。

### 提言2 幼児期に生活の中にある身近なものを利用して作って遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で一緒に作って遊ぶことを楽しめるようにしよう

幼児が作って遊ぶことを繰り返し楽しむためには、その意義や大切さを保護者と共有し、家庭においても親子で作って遊ぶ機会を増やしていくことが大切である。保護者自身が親子で作って遊ぶ楽しさを感じるとともに、作って遊ぶ体験が表現力や想像力を豊かにすることを実感できるようにすることが大切である。

- 家庭で用意できる身近なものを使って、作って遊ぶ遊びや活動を親子で体験できる機会をつくろう。
- 親子で身近なものを使って作る活動や、作ったもので遊ぶ活動の機会を指導計画に位置付けよう。

### 提言3 社会実態や環境問題を踏まえ、生活の中にある身近なものを利用して、親子で一緒に作って遊ぶことを積極的に楽しめるように発信しよう

AIが発達しものが豊かな現代において、親子の触れ合いの減少や環境破壊が問題となっている。社会の実態やSDGsなどの環境問題への意識を高め、親子での触れ合いの機会を広げたり、限りある資源を大切にするように働き掛けたりすることが大切である。

- 身近な素材や材料を使って、作って遊ぶことを通して、親子で触れ合うことの大切さや、持続可能で限りある資源を大切にすることの重要性を感じられるようにしよう。
- 作って遊ぶ遊びや活動について、具体的な例や方法などの情報を、様々な方法で発信しよう。

## 提言の実践

1年次に行った調査をもとに発信した3つの提言は、実践・行動化につなげていくことが重要である。以下にまとめた各提言の実践事例を参考に、全国のそれぞれの地域や園・家庭の実態に応じた取組を進めていただくことを願っている。

### 実践について

#### 実践1 提言1 遊びや生活の中で、身近なものに関わり、いろいろな素材に親しんだり、作って遊んだりすることを体験できるように遊びや環境を工夫しよう

##### おいしいブドウを取りにいこうよ

3歳児 9月

##### 指導のポイント

- 身近な素材に関わり、作って遊ぶことが楽しめるようにする。
- 季節感を感じ、子どもたちが興味をもてるもので環境を工夫する。
- 自分なりに作れた、できたという思いをもてるようにする。

##### 考察

- ▶ 「これ作ってみたい、知っている」という幼児が興味関心をもてる題材や環境を工夫することで、幼児が主体的に関わり遊びを楽しむことにつながった。
- ▶ 季節や時期に応じて、作って遊ぶことを計画的に取り入れることで、幼児が作る楽しさ、使って遊ぶ楽しさを実感できた。

園にあるビニル袋や京花紙、セロハンテープ等を使って、作って遊ぶことを楽しんだり、作ったもので友達とやりとりをしたりして遊べるように、素材を用意するとともに、幼児の手に届く高さの廊下の壁面に、ブドウと蔓を模した壁面装飾を作った。

壁面を見た子どもたちは、「ブドウがなっている」と興味を示し、壁面のブドウを取って食べる真似をしたり、「私、ブドウ好きだよ。食べたことある」と教師に話し掛けたりしてきた。そこで、教師は、興味をもった幼児から素材に関わって作れるように、「お部屋にブドウが作れる材料があるよ」と声を掛け、材料を示した。子どもたちは、自分なりに京花紙を丸めてセロハンテープで留め、ビニル袋に詰めて、自分のブドウを作ることを楽しんだ。できあがったブドウは、壁面のブドウの蔓に飾った。その後、ごっこ遊びの中で、ブドウ狩りをして遊んだり、ままごのごちそう

にしたりして遊んでいる。片付けの際は、遊んだブドウを壁面に戻している。身近な素材を使った製作物を壁面装飾に生かすことで、作って遊ぶ動きを引き出し子どもたちが繰り返し遊びを楽しむことができた。



### 実践2 提言2 幼児期に生活の中にある身近なものを利用して作って遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で一緒に作って遊ぶことを楽しめるようにしよう

#### おうちの人と一緒に新聞紙で作って遊ぼう

4歳児 11月

「おやこふれあいデー」として、参観を兼ねて親子で一緒に製作活動をしたり、作ったもので一緒に遊んだりして過ごす日を選んだ。

4歳児は、新聞紙を使ったフリスビーとコマを親子で一緒に作って遊べるようにした。まず、学級全体で集まり、担任から作り方や遊び方を簡単に説明すると、子どもだけでなく保護者からも簡単に楽しく遊べそうな教材に「楽しそう!」と声が上がった。フリスビーとコマ、それぞれが作れるコーナーには、作り方を図示したものを掲示して必要な材料を置いておき、親子で相談して好きな方から作り始められるようにした。

「どっちから作る?」などと親子で話したり、材料と一緒に取ったりしながら親子で作りを始める。保護者が子どもに手を添えながら一緒に作ったり、子どもが作っている様子を保護者が微笑みながら見守ったりする姿が見られる。作り終わると、それぞれの親子が思い思いにコーナーの近くに用意してある的をめがけてフリスビーを投げたり、作ったテーブルの上でコマを回したりして楽しむ。

当日のアンケートには、「好奇心をもって積極的に取り組む姿が見られてよかったです」「自分で頑張って作るんだという気持ちが伝わってきました。親子でとても楽しかったです」「身近にあるものでこんなに楽しいものが簡単に作れると知り、楽しかったです。家でも作ってみたいと思います」などの感想が寄せられた。



##### 指導のポイント

- 親子で触れ合いを楽しみながら作ることができるよう、家庭でも手に入りやすい身近な材料を使い、発達段階に応じた取り組みやすい教材を選ぶようにする。
- 親子でじっくり取り組めるように、各親子の場をゆったりととり、作ったもので遊ぶ時間も十分に保障する。

##### 考察

- ▶ 園が身近な材料で簡単に作れるものを紹介したり、親子と一緒に作って遊ぶ機会を提供したりすることで、保護者も改めて身近な材料を使って子どもと一緒に作って遊ぶ楽しさを実感することができる。保護者が楽しいと感じることが、家庭でも日常的に親子で作って遊ぶ、楽しむことにつながる。

### 実践3 提言3 社会実態や環境問題を踏まえ、生活の中にある身近なものを利用して、親子で一緒に作って遊ぶことを積極的に楽しめるように発信しよう

#### 「幼児期における造形活動の楽しさや

#### 活動を通しての学びについて」

保護者 11月

地区PTA連絡協議会にて、大学の教授を講師として招聘し、保護者が子育てについて学ぶ「子育て study☆meeting」を開催した。

「幼児期における造形活動の楽しさや、活動を通しての学びについて」をテーマに製作活動、グループトーク、講話の3つの内容で行った。製作では、ビニル袋を使ったパラシュート作りを一人一人が楽しみ、また牛乳パックを使った町作りをグループで行い、イメージを伝え合いながら楽しんだ。

グループトークでは、「子どもが園から持ち帰った作品をどうしているか?」や、「表現活動の得手不得手について」情報交換をした。

講話では、大人に分かる「モノ」ではなく、表現する「コト」のプロセスそのものが大切であることや、やらされた「コト」では育たない自分発の表現が大切であることを教えていただき、園から作ったものを持ち帰り、嬉しそうに見せる子どもへの関わり方などを教えていただいた。

活動終了後の感想では、「子どもの作った物への見方が変わった」「子どもと一緒に製作をしたい」「子どもの製作する姿を大切にしたい」「製作にのめりこんでしまい、手を止められず、子どもの気持ちが理解できた」という声が聞かれた。



##### 指導のポイント

- 園で幼児が取り組む製作活動を保護者が体験することで、作ったり、表現したりすることの楽しさを感じられるようにする。
- 様々な園の保護者と関わり、意見交換することで、情報の共有や思いを共感できるようにする。

##### 考察

- ▶ 保護者同士が学ぶ機会をもち、表現活動を楽しめたことにより、子どもの表現活動への理解が深まった。
- ▶ 子どもの製作した作品が、出来上がるまでのプロセスを大切に保護者の視点から、養われた。
- ▶ 親子で製作することの興味や関心をもつことができた。
- ▶ 身近な素材で遊べる楽しさを知り、素材を大切にしようとする意識が高まった。



# ① 東北北海道ブロック

申込者 [計30名]

- 園児12名 ● 保護者12名 ● 園長1名
- 教諭5名

実施日: 令和5年10月7日(土) 会場: 一関市 いちのせき健康の森

## 親子で遊ぼう、1・2・3 (ワン・ツー・スリー)

受付	開会式	親子で作って遊ぼう! (竹ゼミ)	休憩	ウォークラリー	閉会式
9:10	9:30	9:40	10:40 10:50	11:50	12:00

講師 いちのせき健康の森職員

いちのせき健康の森



竹ゼミ



ウォークラリー



感染症流行のため中止

# ③ 東海北陸ブロック

参加者 [計28名]

- 園児10名 ● 保護者10名 ● 園長6名
- その他2名

実施日: 令和5年10月14日(土) 会場: 富山市 富山大学自然観察実習センター

## 「たけ」をつかって、つくってあそぼう

受付	開会式	「たけ」をつかって、つくってあそぼう	おやつタイム	製作のつづき	閉会式
9:00	9:30	9:40	10:30	11:15	11:30

講師 富山県国公立幼稚園・こども園長会 会長 黒田 卓

竹を使って遊具やおやつを作ったり



親子で作成マニュアルを見ながら、ノコギリ、ナタ、ドリルなどを使って作った。おやつタイムでは、竹に巻いて焼いたパンや竹串に刺して焼いたマシュマロをクラッカーに挟んで食べた。

作ったもので遊んだり



竹ポウリングや竹馬、竹太鼓など、作ったおもちゃで遊んだ。

こんなものを作りました



作ったおもちゃを持ってみんなで記念撮影。天気も良く、とても気持ちの良い1日だった。

参加者の声

- 工夫すれば竹が楽器になったりポウリングのピンになったりと遊び方はたくさんあることに子どもも驚いていました。
  - 竹を加工するための道具は、普段ならなかなか触れることのないものですが、丁寧な説明により親子で使用できて良かったです。
  - 竹を使って遊んだことも工具を使うこともなかったので良い体験ができました。おやつもおいしくとてもいい日でした!
- ※作成したマニュアルや当日の様子は、<https://sites.google.com/view/r5kkysp-toyama/> にまとめています。



# ② 関東甲信越ブロック

参加者 [計43名]

- 園児15名 ● 保護者15名 ● 未就園児1名
- 園長4名 ● 教諭5名 ● 講師3名(補助1名含む)

実施日: 令和5年9月2日(土) 会場: 長野原町 浅間酒造観光センター

## 親子でぶくぶく(化学変化)を愉しもう! ～ スライム・入浴剤作り 酒蔵見学 ～

受付	開会式	ワークショップ1 スライム・入浴剤作り	休憩	ワークショップ2 酒蔵見学	閉会式
9:40	10:00	10:15	11:00 11:10	11:50	12:00

講師 群馬大学副学長 大学院理工学府教授 板橋英之(ワークショップ1)  
浅間酒蔵株式会社社長 櫻井武(ワークショップ2)

説明を聞こう



● 化学変化について大学の先生からわかりやすく説明をしてもらった。

すごい! 変わっていく



● 親子で協力して入浴剤とスライムを作る。化学結合と化学分解を体験しながら知ることができた。

お酒はこうやってできるのか



● 「お酒も化学変化なんだね。」

参加者の声

- 普段できない体験が親子一緒にできてよい思い出、経験になった。
- とても貴重な体験だった。小さいときのこのような体験が大人になって思い出す時が必ずあると思う。
- 子どもの興味のあるバスボールとスライムを作れ、かつ化学について知ることができよかった。
- 子どもとゆっくり向き合っていたので、とてもよい時間を過ごせた。
- 物作りで得る発見は子どもの心を豊かにし、これからの成長にとっても大切だと実感した。

# ④ 近畿ブロック

参加者 [計151名]

- 園児30名 ● 保護者30名 ● 園長51名
- 教諭29名 ● 行政7名 ● その他4名

実施日: 令和5年11月11日(土) 会場: 大和高田市 奈良県産業会館

## 親子でいっしょに作って遊んで楽しもう!

受付	開会式	親子でいっしょに作って遊んで楽しもう!	閉会式
13:00	13:30	13:45	15:00 15:15

講師 元大和高田市教育委員会職員 福西 英俊

新聞紙スリッパ、ペットボトルランタンを作ろう



● 身近な素材を用いて、「もしもの時に使用できるものづくりと一緒にした。新聞紙を重ねてスリッパを作るとデコボコの上を歩いても痛くなく、ランタンは水を入れるとよく光るので不思議な様子だった。

チラシをつなげて遊ぼう



● 「上手にくくれるよ!」と、細く巻いたチラシを皆でつなげると面白い形がたくさんできた。

マルチトンネルをくぐって遊ぼう



● ヘッドライトの作り方を教わった。停電を模した暗闇トンネルはドキドキするけれど面白かった。

参加者の声

- 身近にあるもので子どもたちは遊びを楽しめるのだなと感じた。子どもの想像力、創造力は素敵だ。家でもまた遊びたい。
- 今日一緒に活動することで「こんなこともできるようになったんだ。」と成長を感じることができました。
- 作って遊んで楽しむ中に防災を取り入れたり、SDGsを意識したりする活動を見て、大切なことはもちろん、面白いと感じた。
- 身の回りの素材を使って楽しむことを保護者と共に経験できる環境を園でどう企画、発信していくか、とても参考になった。



## ⑤ 中国ブロック

参加者 [計123名]

- 園児31名 ● 保護者33名 ● 未就園児4名 ● 小学生13名
- 園長25名 ● 教諭13名 ● 行政3名 ● 講師1名

実施日: 令和5年10月21日(土) 会場: 下関市 下関市教育センター大研修室

# 一枚の紙から広がる世界 親子一緒におりがみあそび

受付	開会式	親子一緒におりがみあそび	閉会式
9:45	10:00	10:15	11:15
			11:30

講師 周南折り紙研究会 会長 松田 邦夫

講師の先生のお話を聞きながら長方形の紙で作ってみよう!

できたよ!!



● 正方形の色紙ではなく、長方形の紙を使った折紙を紹介してもらった。



● 講師の先生の説明を聞き、スクリーンの映像を見ながら、箱、とんがり帽子、ハート、いちごの4種類の折り方を教えてもらった。



● 「できたよ! できたよ! とんがり帽子。素敵でしょ」と嬉しそう。

参加者の声

- 普段、子どもたちは色紙を折って遊んでいるが、親子で折ることがなかったのでとても新鮮な時間だった。親子で試行錯誤しながら折ることができ、楽しかった。
- 長方形の折り紙は、親子で初めてだった。家でも広告やカレンダーなどを利用して作ってみようと思った。
- 難しそうにしながらも、完成した時の子どもの喜ぶ顔が見られて幸せな時間を過ごすことができた。
- 子どもの手先の運動にもなり、家でも折り紙の時間をたくさんとりたかった。

## ⑥ 四国ブロック

参加者 [計31名]

- 園児11名 ● 保護者11名 ● 未就園児1名
- 園長1名 ● 教諭4名 ● その他3名

実施日: 令和5年10月27日(金) 会場: 愛南町 須ノ川公園キャンプ場

# 親子で一緒に自然を楽しもう! ～ 愛南町の山や海を知ろう～

受付	開会式	自然の中での遊び	休憩	親子で力を合わせて野外炊飯	閉会式
8:45	9:00	9:15	10:50	11:00	12:30
					12:45

講師 中田夢工房 社長 中田 非斗志

自然の中での遊び

親子で力を合わせて野外炊飯



● 公園内で「獵犬ゲーム」をし、親子で真剣に木の香りをかいだし、番号の札を必死で探したり、歩き回り楽しんだ。



● 火起こし体験をし、薪を使ってのカレー作りをする。子どもたちが包丁で野菜を切り、煮込む間も薪を足し火が消えないようにして作り、美味しくみんなで食べる事ができた。



参加者の声

- 普段できない火起こしをしてカレーを作る体験や、木の香りをかぐことなど、とても良い経験ができて良かった。親子と一緒に楽しめみんな笑顔いっぱいだったのが印象的だった。
- 外が大好きなので、このような機会はとてもありがたいものだった。友達と一緒に出来たのも良い体験になった。子どもたちだけでなく親も楽しませていただき、ありがたかった。
- 包丁で野菜を切ることも初めてだったが、ちゃんとやれていて驚いた。やはり自然の中で遊ぶのは良いことで大人にとっても大事だと思った。

## ⑦ 九州ブロック

参加者 [計150名]

- 園児30名 ● 保護者30名 ● 園長23名
- 教諭61名 ● 小学校関係1名 ● 行政5名

実施日: 令和5年11月11日(土) 会場: 由布市 由布川幼稚園

# 身近なものとの関わりを通して 子どもの豊かな感性を育むために ～ 自然とふれあって、親子で一緒に楽しもう～

受付	開会式	公開保育 「親子で一緒にはっぱを使って遊ぼう」	研究協議	分科会発表 (園長、副園長・主任等研修大会)	閉会式
8:45	9:00	9:30	10:40	11:30	12:30

落ち葉プールで遊ぼう

お家の人と作ってみよう

はっぱクイズ



● 落ち葉に寝ころがったり、隠れたり、ジャンプしたり、宝探しも楽しんでいた。



● はっぱでスタンドグラスを作ったり、魚を作って魚釣りを楽しんだり、自分の作りたいものをお家の人と相談して作ったりした。一緒に作るって嬉しい! とここに笑顔であった。



● 箱に入っているはっぱを触って何のはっぱか当てた。大きさや形、感触がヒント!

参加者の声

- はっぱにもいろんな種類があり、こんなに遊べるのかと思いました。公園で自然のもので一緒に遊ぼうと思います。
- 子どものアイデアや出来る姿が増えている姿にびっくりしました。成長を感じられて嬉しいです。
- 子どもと一緒に思いっきり遊べて楽しかったです。ゆっくり関われる良い機会となりました。

## 全国キャンペーン・研修会のアンケートから読み取れたこと

全国キャンペーン・研修会の実施において、身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための実践・行動化が促された。

- 身近にあるものを利用して、子どもたちが作って、それらで遊びを楽しみ、生き生きと取り組んでいる姿から子どもの成長や、創造力の素晴らしさを感じることができた。
- 身近にあるものに関わり、親子で一緒に作って遊ぶ体験が、子どもとゆっくりと向き合い、楽しさを共有でき、とても貴重な時間であると実感した。また、家庭でも子どもと一緒に遊びたいと思うことができた。
- 身近なもので作って遊び、楽しむことが防災やSDGsを意識する機会にもなり、楽しみながら取り組むことが大切であると実感することができた。
- 身近にあるものでも、親子で一緒に楽しく遊ぶことができ、貴重な体験ができることが分かり、改めて親子で触れ合いながら作って遊ぶことの良さや意義を実感できた。



行動化を促すためのキャラクター  
「チャレンジくん」

## 2年次の全国キャンペーン・研修会の成果

全国キャンペーン・研修会の参加者アンケートを集計した結果、親子で関わりを楽しみながら身近にあるものを利用して作ったり、作ったものを使って遊んだりする体験が大切であると実感していることが分かった。また、保護者自身が親子での触れ合いを大切にしながら、豊かな体験を広げていこうと思うきっかけとなっていることが分かった。子どもとゆったり向き合っ、親子で一緒に遊ぶ楽しさが実感でき、参加して良かったという声が多数寄せられ、今回の取組の意義が明確になった。